

1. 評価報告概要表

作成日平成22年 4月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500622
法人名	特定非営利活動法人ひまわり
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	太田市新井町544番地1 (電話) 0276-45-5737

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年3月26日

【情報提供票より】(平成22年 2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	12 人	常勤	3人 非常勤 9人 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	道光熱費 1日400円・通院介助費1H1500	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円

(4) 利用者の概要(2月 14日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	70歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内医院 ・ 永倉歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者の自宅を改装して開設したため居住空間に制限があり広い場所が確保できないが、近隣の住民センターを活用して踊りや演奏等のボランティアの受け入れを行い交流を持ったり、散歩途中の幼稚園に入居者が縫った雑巾を渡したり、近所の神社を入居者と清掃したり、地域の一員として取り組んでいる。また、馴染みの職員による見守りを重視したケアとホーム内の細かな修正で、精神と身体の安全確保に努めている。このような構造上の現状対策として意識的に体が動かせるよう、短時間ではあるが職員とマンツーマンで足上げをしたり、足の交差運動を行い身体能力維持に努めている。ホームとしてきめ細かな対応や工夫で努力の見られる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の結果は、居間に掲示され、職員会議で報告している。評価を受けて、トイレの使用中の表示を作成したり、入浴においては入居者の意向を確認して意向に沿った入浴頻度の見直し等をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、前回の自己評価を基に管理者が作成している。作成された自己評価は、職員に見せていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は主に報告が中心であるが、救急救命については消防関係者に参加を依頼するなど会議内容によって参加をお願いしている。また、ホーム利用要件の問合せに説明したり、困難事例の相談を参加メンバーの民生委員や市担当者を交えて行うなど、会議を活かした取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に、意見を言っていたり声かけ、投げかけをしている。また、玄関には意見箱を設置している。ホーム内及び外部の相談窓口については重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩途中の幼稚園で園児と挨拶をしたり、行き交う人と挨拶を交わしている。時には、近隣の方が野菜を持って来たりしている。また、幼稚園の運動会や納涼祭に招待され参加したり、住所のある方は老人会行事に参加したこともある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から職員と共に“私たちは、利用者を尊重し自立に向けた支援を行います、認知症を理解し常に質の向上に努めます、地域に目を向け開かれたホームを目指します”という理念を考え、掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間に掲示され、朝の申し送りで唱和している。また、管理者は、職員会議で理念をもとにケアがなされているか、理念に沿った関わりの重要性等と話している。職員も日頃のケアで実践できているか振り返り、確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩で近隣の方や近隣の幼稚園児と挨拶を交わしたり、幼稚園へ入居者が作成した雑巾をもって一緒に訪問したり、近隣の神社を入居者と一緒に掃除したりしている。幼稚園児との交流やボランティアの受け入れをしており、地域の方が気軽に訪問できるホームを目指しているが、広い場所が確保できないため、近隣の住民センターを活用して踊りや演奏等のボランティアの受け入れを行い交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が前回の自己評価をもとに作成している。前回の外部評価結果は会議で報告され、入浴の希望の聴取を行ったり、トイレの表示をしたり、介護計画の書式の見直しを行っている。	○	自己評価は、日頃のケアを振り返る機会であり、職員がホームの介護に関する考え方の共有を図るためにも、職員全員で取り組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長・民生委員参加のもと2ヶ月に1回開催し、報告を中心に行われている。特に会議内容が定まっている時には、その内容にあわせて消防関係者や幼稚園の方などに参加してもらい意見をもらっている。また、ホーム利用の要件等の質問に説明するなど、介護関係全般の理解を得るよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には、書類の記載方法や加算について問合せをしたり、空き情報の照会に応じている。また、包括支援センターへ困難事例について相談をしたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	責任をもってケアできるよう職員に利用者を担当させ、家族の来所時には担当職員が暮らしぶりや健康状態を伝えていく。家族にもわかるように居室には担当職員名が表示されている。面会時担当職員が不在の際は、管理者が伝えている。また、急な状態変化等は、電話連絡している。金銭管理は、出納帳のコピーと領収書を、毎月の請求書と一緒に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、「ホームとして勉強になるので」と言って意見等を言ってもらえるように投げかけている。また、玄関に意見箱を設置している。ホーム内の窓口、ホーム外の窓口については、重要事項説明書に明記し、説明している。家族のもっと運動をしてほしいという意見に対して、近隣の本屋まで散歩を日課にするなど個々に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この2年間職員の退職がない。管理者は日頃から仕事のなかで職員の話聞いて、職員の仕事に関する状況を把握するよう努めている。新入職員には、経験職員が1ヶ月ほどマンツーマンについて仕事内容を教えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立てて、今年度はレベルアップ研修会に2回・介護講習会に参加している。参加後は報告書を作成し、他の職員にも報告している。ファックスで送られてくる研修等については、職員に案内している。また、内部研修は医療面や衛生面について不定期に開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、ブロック管理者研修に参加し、同業者に悩みや相談をしている。交換研修では、他のホームのよいところを参考にしたり、当ホームのよいところを確認するよい機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学に来てもらっている。また見学に出来ない場合はホーム側から居宅や入院先に出向き、話を聞いたり、ホームの様子を伝えている。入居当初は職員が共通の話題づくりをするなど話しかける事に努め、早期に関係が築けるように関わりを多くもっている。また、家族には面会を多くしてもらおうようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	適性にあわせて、カレンダー替え・テーブル拭き・おしぼり配り・花の水やり等できそうなことで好きそうなことをして頂いている。それぞれの認知症の特性や個性を掴み対応する事で、入居者が自分を尊重してくれていると理解し、職員とよい関係が生まれた経験が多くあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	調査票に、生育歴・学職歴の他、本人のニーズ・家族のニーズを記載している。日常生活のなかでの訴えを聴き取り、追記している。また、本人とのやりとりや言葉から察して、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族から意見を聞いて、入居してからの生活の観察や担当職員からの意見も踏まえ、ケアカンファレンスで話し合い作成している。作成された介護計画は、再度職員会議で内容を確認して作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは6ヶ月に1回行い、見直しを行っている。状況に変化があった場合には、期間内でも見直しを行うこととしている。細かな状況の変化については、申し送り確認したり、検討事項で検討して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の付き添いやお墓参り、買い物等希望がある場合はできる限り対応している。また、猫と共に入居したい事例も検討(他の入居者への対応、猫の世話等)を行い受け入れるなど、その時々々の状況、個人の要望にあわせて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時連絡票を作成し、ホームから主治医へ・主治医からホームへの連絡が記載できるようにして、これまでのかかりつけ医の受診を支援している。受診結果は、生活記録及び連絡ノートに記載して職員で共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が必要となった場合、ホームの構造上歩行困難となった場合には、他施設への入所としている。家族等には、入居時及び状態変化に伴い説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にもあるその人を尊重したケアとして、笑顔ある対応に心がけ、特に言葉使いには注意を払っている。親しさから言葉使いが崩れないよう、管理者は時には職員に注意を促しながら指導している。個人記録は、目の届かない場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活パターン(食事・レクリエーション・散歩等)ができているが、個々の要望やその時やりたいことを尊重している。裁縫が好きな入居者から「縫わせてほしい」という希望があった場合は雑巾を縫ってもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者に希望を聞きながら、偏らないようバランスよく献立を立てている。食事の下ごしらえから味付けまで得意な入居者と一緒につくり、できる入居者は後片付けを行っている。献立は、ボードに記載されている。朝食は同じ食事を職員とともに食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回である。前回評価結果から入居者の意向を確認するよう取り組んだが、入居者に週2回の流れができており、現在はそれ以外の希望がない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の号令は入居者が順番に行っている。また、居室の掃除は本人ができることをして頂いている。季節にあわせて節分やクリスマス会をしたり、老人センターでカラオケを楽しみながら忘年会を開催したり、誕生会にはケーキで祝ったりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	よい季節には、神社や幼稚園を通りながら散歩をしている。買い物には、その時の状況によって入居者に声をかけながら、一緒に出かけている。また、月1回程度は、外食やドライブなどに出かけている。花が好きな方は花屋に行ったり、お墓参りに行きたい方にはお墓に向かうなど個々の状況にそった支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しているが、帰宅願望の強い方が入居され、玄関をでるとすぐに傾斜の急な階段があり、事故防止を防ぐため施錠している。	○	鍵をかけることを常態化しないよう繰り返し話し合いを行い、鍵をかけないケアに取り組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災・地震の災害訓練を行っている。訓練では、通報訓練・避難経路の確認、誘導の仕方・消火器の使い方等を行い、昼間・夜間を想定して行っている。また、運営推進会議で近隣への要請を行い、参加していただいている。日頃から台所の火の元への注意を払い、夜間はストーブからエアコン使用に変更するなど対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録し、水分摂取の少ない方には、こまめに摂取するよう支援したり、スポーツドリンクを提供している。医師からの指示が必要な方はおらず、塩分調整が必要な方には味や量を調整して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、プランターに季節の花が植えられている。静かな住宅街にあり、居間からは近隣の植木等が眺められる。壁には、季節の飾りつけや入居者が作成したカレンダーが掲示されている。また、入居者の自筆の目標が掲げられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベットが備えられ、それ以外にタンスなど馴染みのものが持ち込まれている。また、行事の際の写真などが飾られている。		